

子育て奮闘記

経理 永井 和江

長女が年少のころ、幼稚園から持ち帰った1人分のケーキを、「みんなで食べよう、分けて」と言いました。3等分したケーキは、小さくて、一口で食べてしまえるほどになりましたが、お姉ちゃんの優しい気持ちを感じられ、嬉しかったのを覚えています。長男は、優しくて几帳面、手先が器用で、兄弟の中でゲームが一番上手です。家族の誕生日を覚えていて、「おめでとう」のメールを送ってくれます。二男は、シャイで、本を読むのが大好き、ハリーポッターの新刊が発売されると2冊セットの分厚い本を、あっという間に読破していました。二女は、お菓子作りが得意で、丁寧に型抜きしたクッキーやケーキなどまめに作ります。また、テキパキと段取りよく食事の支度を手伝ってくれます。

上の3人は年が近かったので、賑やかで騒がしく、可愛いけど大変、今なら笑って済ませられそうな事も、その当時は一人で悩んでいました。アトピーがひどくてなかなか良くならず、ちゃんと育てなければというプレッシャーがありました。少し年が離れた一番下の子は、それまでの経験から「このくらいは大丈夫」と余裕を持ってました。子供の成長と共に親も成長したんですね。

4人の子供たちは、大学生と高校生。手が離れ、子育てがひと段落した感じです。今では、昔のやんちゃなはずらや、賑やかで騒がしい日々が懐かしく思い出されます。これからも子供たちが成長し、自立するのを見守っていきたいと思っています。



子供の頃の夢

総務 菅 輝美

改めて子供の頃の夢と聞かれると忘れてしまっていました。

以前、小学校時代タイムカプセルに埋めた「20年後に自分がどのような大人になっているのか？」を書いていた日記を発見しました。その中には「しょほうし」と書かれていました。

よくよく読み返すと「消防士」でした。その日記を読むにつれていろいろ思い出しました。あの頃は、消防自動車に乗りたいという憧れと、人命を助ける姿に、消防士は私の中でヒーロー的存在だったと思います。その夢は体力のなさや視力が悪いことで挫折しましたが、人命を助ける姿は今でも憧れです。現在は違った形ですが、“同じ人命を助ける”医療機関で働いています。今もあの頃の憧れを胸に秘めながら、毎日仕事をしています。

